

令和7年度 夢チャレンジ制度採択者一覧

| 部門           | 学部・学年         | 代表者氏名          | チャレンジテーマ  | 内容  |
|--------------|---------------|----------------|---|---|
| はじめの<br>一歩部門 | 社会福祉学部<br>1年  | 若杉 鳳佑<br>(他1名) | NISAを趣旨にしたボードゲーム                                      | <p>主な内容としてはゲームの作成と実施を繰り返すことになる。</p> <p>ゲームの作成には多くの参考書籍やSNS等で調べた内容を基軸にして作成する。内容としては、カードとゲームを進める上でのボードがゲームの中心になると考える。</p> <p>ただし、ゲームのクリア方法や細かいルールは検討中であり、ゲームのシステムを決定することも計画に含まれている。</p> <p>実施場所は、まちなかキャンパスうえだを予定している。もしくは、なるべく多くの地域住民に参加してもらいたいため、学校や住宅に近い場所にしたいと考えている。</p> <p>また、実際に大学生や高校生にプレイしてもらうことによって、知識として新しい発見があったかどうかについてのアンケートを実施し、意見に合わせた改良を重ねる予定である。</p>  |
|              | 環境ツーリズム<br>1年 | 大江 ねね<br>(他2名) | 里山の課題を考える3日間の体験合宿型<br>アイデアソンin別所温泉                    | <p>本企画では子どもたちの笑い声が60年後も響き渡る里山にするために、今からどう守り？どう育てどう作っていくのかという問いを考えればとして、アイデアソン形式で三日間の里山体験合宿を実施する。</p> <p>参加者は6から10名で全国の大学生、専門学生を想定中している。</p> <p>三日間の具体的なプログラム内容は一日目：里山の現状インプット薪割り体験ワークショップ夕食交流会、二日目：各種アクティビティと課題解決ワークショップ、三日目：アイデア発表会、閉幕式。9月のアイデアソン実施後には、活動の成果や学びを外部に伝え、再現性のあるノウハウとして残すことを目的に冊子形態のレポートブックを作成する予定である。</p>   |
|              | 環境ツーリズム<br>4年 | 宮川 晶<br>(他2名)  | 「長野県産小麦の魅力発信！」<br>～県内産小麦を使用したお店を紹介する<br>ガイドブックを作りたい！～ | <p>長野県産小麦を使用しているラーメン店、パン屋、菓子店を訪ね、「県産小麦を選ぶ理由」や「食へのこだわり」、「地域との関わり」などを取材・記録し、1冊の冊子にまとめる。</p> <p>まず、長野県産小麦を扱っている店舗を調査し、地域や店舗の特徴のバランスを考慮し取材先を選定する。その後、各店舗に足を運び、実際に商品を味わった上で、店主や製造者にインタビューを行う。取材では、素材選びの背景や地域農業とのつながり、加工の工夫、食文化への想いなどを深く聞き取り、写真と文章で記録する。</p> <p>記録した内容は、自ら編集・構成し、長野県産小麦の多様な活用や、それを支える人々の姿が浮かび上がるような構成で1冊の冊子として制作。上田市観光協会や上田駅、取材先の店舗に置いてもらうことも考えている。</p>   |
| さらなる<br>飛躍部門 | 企業情報学部<br>2年  | 上村 航我<br>(他1名) | 誰もが「地域の記録者」になれる。<br>参加型3Dアーカイブ・プラットフォーム<br>の構築        | <p>昨年度の課題である一般ユーザーの操作の難しさを解消するため、外部の技術に依存した部分をApple社のObject Capture API等を活用した独自技術に置き換えて、高精度な3Dモデル測定機能を自作アプリ内に統合する。このことで「誰もが自分のスマホで容易に3Dアーカイブを体験できる」ようになるプラットフォームを提供できる。ユーザーは本アプリ一つで、文化財の撮影から3Dモデル生成、AR表示までをシームレスに行えるようになる。加えて、昨年度の特設施設専用アプリとは異なり、ユーザーがスキャンした複数の3Dモデルをライブラリとして管理できるようにすることで、自分のスマホで文化財を自由に気軽に3Dモデルとして鑑賞できるようにする。最終的には、開発したアプリをApp Storeで一般公開(誰もがダウンロード可)し、誰もが自分のスマホ一つで文化財や地域資源のデジタル化に参加できるようになることを目指す。</p> |
|              | 社会福祉学部<br>3年  | 谷野 綾音<br>(他3名) | アソビとマナビ   | <p>昨年度の活動での匿名アンケートから、外遊びを開催する。熱中症対策などの観点から、秋頃の開催を予定しているため、落ち葉を使った工作を行うなど自然と触れ合える遊びを行う。また、アイシャドウの粉やリップを容器からはがし、色ごとに分け、その中から好きな色をみつろうやオイルと混ぜ、型に流し固めることで子どもと一緒にクレヨンを作ることができる。したがって化粧品からクレヨンを作るワークショップ型のイベントも行う。ボードゲームをテーマにしたイベントも定期的に続けながら、間にそれ以外のことを行う回も設けることで、物を大切に使うことやアップサイクルによるエシカルな考え方を知ってもらい、視野を広げてもらうことができる。また、子どもたちの新たな興味や楽しいことを新しく見つけてもらう機会にもなる。</p>   |
|              | 社会福祉学部<br>3年  | 高橋 初奈          | 制度では補いきれない地域住民の困りごとを解決したい<br>～お花し支援プロジェクト～            | <p>主な活動は訪問支援である。そのために学生ボランティアの確保、利用者と学生のマッチング、お花の管理、訪問支援後のアンケートなどを行う。</p> <p>また、宣伝活動として、地域包括支援センター等が主催しているコミュニティカフェや体操教室、自治会のイベント参加に加え、学生が講師となるスマホ教室などを行う。地域のイベントだけでなく、長野市や松本市の学生主体のイベントにも参加し、他の学生団体との意見交換をし、活動に反映させていきたい。公式LINEやInstagramによる情報発信やテレビや新聞などのメディア機関への働きかけも行っていく。これらの活動を地域の方や関係機関へ報告・意見交換する場を年3回程度設け、今後の活動に繋げていく。</p>  |